

観音菩薩をお迎えし、心身の安らぎを得る



林艶紅さんは埼玉分会会員で、また文書組のボランティアの一員である。林さんは3月12日に東京佛光山寺の覚用法師、如昱法師、如恭法師を招き、自宅で仏像安置法要を行った。板橋分会の池島雅莉会長をはじめ、埼玉分会会長など会員12人が参加した。覚用法師は、家の中の仏壇の重要性及びその効用について（1）人々の心を安定させる、（2）仏法を弘め衆生を成仏させられる、（3）家でお経を唱える場所を提供できる、（4）修行の心を忘れることがないと説法した。その後、星雲大師の「福海」の書を贈り、心の中に仏がぶように、良い縁が結ばれるように、福が永く続くように、智慧が海のように広大になるようにと祈願した。

林艶紅さんは法師が自宅まで来てくださったことに大変感謝した。また、仏像が安住する場所を得られたことを感謝した。「佛光山道場のボランティアの一員として良い報いを得、良い縁を広げることは大変光栄です。そしてまた、読書会は、参加することによって自分の考えを変え、仏法を日常生活で実践できるようになれ、佛光人として幸せです」と話した。最後に、参加者が祝福の言葉を述べ、法要は終了した。

午後、如昱法師が金玉満堂教科書の「日常修行」の一文を読み、「本当の修行は日常にあり、仏道の本源は生活の中にあります。会員はお互いに日常の生活の中でいかに修行するのかということをつかち合うようにしてください」と説いた。また法師はこの仏像安置の機会を活用し、家庭内における仏道の礼儀を説明すると共に、家庭における普段の自己修行の効果を教え導いた。